



川口けいすけのグリーンス川越

73
 SINCE 2003

編集/発行 川越市議会議員 川口 啓介
 〒 350-8601 川越市元町1-3-1 川越市役所6F 政晴会議員控え室
 TEL 080-3025-5776 FAX 049-227-3810 E-mail kawaguchi-keisuke@outlook.com

6月議会川口の一般質問より

『川越版ネウボラ』実施で切れ目ない子育て支援を

「将来の本市生産年齢人口維持のためにも、『川越版ネウボラ』の実施で切れ目のない子育て支援を」との前の提言から2年が経過し、その間、毎年少しずつ充実している川越市の子育て支援ではありますが、未だ「川越市で子育てしたい」と思わせるほどには至っていません。誰がどのような支援を求めているのかを改めて考える必要があると訴え、再度『川越版ネウボラ』の実施を求めました。

埼玉県と川越市の現状と課題

埼玉県は、核家族世帯の占める割合が全国で2番目に高く子育て期の男性の就業時間が全国で3番目に長い。転入率も全国で3番目に高く、周りに親も、知り合いもいない方が他県に比べ多いのが埼玉県の現状です。近年よく言われる、家庭の中で子どもと2人きりで育児不安を抱える母親の姿が目に見えます。川越市でも核家族以外の世帯は全世帯の約7%程であり、同様の現状が伺えます。

そのような中、「子育て支援」と言えば多くの方が真っ先に頭に浮かべるのが待機児童対策ではないかと思えます。そこで川越市の場合、何割程の方が保育園への入所を希望しているのか調べてみました。

希望者は右図の通り、0歳児の14%、1歳児の32%、2歳児の33%、3歳児の29%・・・、つまり、待機児童対策は、0歳児を持つ86%の方にとっては子育て支援になっていないという現実です。

	人口	希望者数	対人口比
0歳児	2740	398	14%
1歳児	2908	942	32%
2歳児	2962	967	33%
3歳児	3046	891	29%
4歳以上児	6127	1625	27%
合計	17783	4820	27%

ニーズが把握できていない?

子育て世代の中でも、一般的に特に支援が必要とされているのは妊産婦と産後から未就学児の育児をされている方で、その中でも最も支援を必要としているのは、産後3か月までの方であると、前回の一般質問の答弁で本市の見解を確認しています。通常ならこの方々がどのような支援を必要としているか、市として何が出来るのかという視点で支援策が進められるのではないかと思います。川越市ではそうはなっていないというのが私の見解です。

川越市が主にニーズの把握に利用していたのが「川越市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」で、「川越市子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料となっていたものでもありますが、この調査の設問の内、実に約87%は保護者の就労状況と保育園・幼稚園・学童保育と子どもを施設に預ける事に関する設問であり、待機児童対策など特定意図をもった調査だったか、それ以外に目がいかなかった結果であると考えました。

その結果、保育需要以外のニーズは、川越市の行政の中で「その他の細かいニーズ」となり、そのための支援策は二の次三の次になり、「切れ目」を生んでいると考えています。

